

「キャンパス・アジア」モニタリング 自己分析書

平成25年5月

「アジア・ビジネスリーダー・プログラム」

一橋大学

<目 次>

I 構想にかかる基本情報および目的、進捗状況	
1. 基本情報	1
2. 構想の目的、概要、進捗状況	1
II 基準ごとの自己分析	
基準1 教育プログラムの目的	4
基準2 教育の実施	
基準2-1 実施体制	5
基準2-2 教育内容・方法	7
基準2-3 学習・生活支援	8
基準2-4 単位互換・成績評価	9
基準3 学習成果	10
基準4 内部質保証システム	11

I 構想にかかる基本情報および目的、進捗状況

1. 基本情報

1. 大学名	一橋大学	
2. 構想名称	【和文】	アジア・ビジネスリーダー・プログラム
	【英文】	Asia Business Leaders Program (ABLP)
3. 取組学部・研究科等名	一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 (ICS)	
4. 海外の相手大学	【中国】	北京大学光華管理学院 (PKU)
	【韓国】	ソウル大学経営学部・経営専門大学院 (SNU)

2. 構想の目的、概要、進捗状況

○構想の目的及び概要

一橋大学大学院国際企業戦略研究科(ICS)と北京大学光華管理学院(PKU)及びソウル大学経営学部・経営専門大学院(SNU)は、将来の日本、中国、韓国の経済界のビジネスリーダーを育成するために協働教育プログラムを策定する。本プログラムは、日中韓のビジネスシステムの知識を集積し、グローバル化した企業内で活躍するための専門知識を磨き、3大学の学生、教員相互の緊密な関係を構築し、ICS、PKU、SNUの個々のカリキュラムと成績評価及び単位認定基準のチューニングをさらに促進すると同時に、他大学に対し新たなモデルを提示することができるものである。

本プログラムは**アジア・ビジネスリーダー・プログラム(ABLP)**と題され、経営学修士(MBA)課程の学生を対象としている。プログラムは、学期間交換留学プログラム及びダブル・ディグリー・プログラム及び短期集中プログラムの3つの教育プログラムから構成される。毎年12名の交換留学生(各大学から4名ずつ)とダブル・ディグリー・プログラムの学生6名(各大学から2名ずつ)及び毎年約30名の学生が3週間の短期集中プログラム「Doing Business in Asia」(アジアにおける事業経営)に参加する。これらの教育プログラムのサポートプログラムとして日中韓の企業インターンシップである「ビジネス・フロンティア・インターンシップ・プログラム」、3カ国の主要企業のCEOによる講演を行う「グローバルCEOフォーラム」、東アジアのビジネスに関して2年に1回開かれるBESTシンポジウム、継続中のBEST提携研究プロジェクト(ICS、PKU、SNUの教員のチームによる共同研究)等がある。

本構想の目的は以下の3点である。1) 東アジアに適したビジネスモデルとリーダーシップのスタイルについて、日中韓の将来のビジネスリーダーを教育するためのカリキュラムを開発をする。2) 教育の質に関する共通の基準(学生の評価、カリキュラムの評価、3大学間の単位認定に関する基準)を作成し、アジア地域に合わせた教育を提供することによって、アジア企業の将来のための人材を育成する。3) 3大学の協働教育の成果報告及びその他のメディアを活用した社会普及活動を通じて日中韓のみならず他のアジアの高等教育機

関の連携のさががけを目指し、ビジネス教育プログラムの協働教育モデルを提供する。

これらをサポートする枠組が、ICS、PKU、SNUの間で教育と研究を提携する **BEST ビジネス・スクール提携協定** である。2011年1月に締結されたこの提携協定を通じ、ビジネス・スクール3校は既に非常に緊密な協議を始めている。各大学の研究科長及び担当教員で構成される BEST ビジネス・スクール提携協定の運営委員会が、このプログラムの管理を行う。また、3カ国のビジネスリーダーと政府関係者からなる諮問委員会が助言と点検を行う。さらに、各大学が ABLP プログラムの教員ディレクター1名とプログラム・ディレクター1名を任命する。

ICS、PKU、SNU は、日中韓の教育協力を更に推進するための裏付けとなる実績があり、日中韓における「質の保証を伴った大学間交流・連携ガイドライン」に沿った交流プログラムを実現することが可能である。第一に、3大学はBESTビジネス・スクール提携協定の確立に共同で取り組み、1年間の協議とプログラム設計を重ねた結果、2011年1月に合意に至った実績がある。第二に、3大学は、グローバル MBA プログラムとして実質的に同等なカリキュラム、成績評価方式及び単位認定システムを備えている。第三に、3プログラム全てに英語による MBA プログラムが用意されている。各大学の教員とプログラム・ディレクターは高い英語力をもち、教材と学生に関する各種資料は英語で作成されている。第四に、3大学は交換留学生の受け入れならびに海外への交換留学生の派遣に関して十分な経験を備えている。

○平成24年度末までの取組状況

本補助事業の枠組となっている BEST ビジネス・スクール提携協定をベースに、「ダブル・ディグリー覚書」（ソウル大学:2013年5月締結予定・北京大学:2012年12月締結）及び「学術・人物交流に関する協定書」（交流協定）（ソウル大学:2007年7月締結・北京大学:2011年4月締結）を締結しており、運営体制を明確にした。平成25年度はダブル・ディグリー・プログラムが実質的に始動し、ICSからはPKU、SNU それぞれに1名ずつ派遣する予定である。PKU から1名の受入も決定している。

ICS で実施している学生3～4人に対して1人の指導教員が付く「セミナー制度」を ABLP にも取り入れることにより、学期間交換留学生やダブル・ディグリー学生に対し、よりきめ細やかで密度の高い指導を提供ができた。

ABLP の参加学生は日中韓のそれぞれの大学において授業を受けることにより、学生はその国における事業経営についてより多く学ぶことができた。具体的には、その国に焦点を絞った特定の講義を受ける方法か、標準的な MBA コースの授業の中でケーススタディやゲストスピーカーのレクチャーを聞く方法である。また、学生は他大学の学生と共にチームを組み課題に取り組むことを通じて他国の文化について学んだ。

夏期に開催された短期集中プログラム「Doing Business in Asia」では、選抜された3大学の学生10名ずつが参加、実際に3カ国での授業や企業訪問を共に体験し、知識や体験を共有することによって短期間で絆を深め、強力な協力関係にあるアジアの次世代ビジネスリーダーのネットワーク作りに繋がった。第2回目の今年度は各国のモジュールを1日ずつ増やすことと、昨年度の経験や参加学生のフィードバックをもとに更に内容の充実を目指したい。

PKU、SNU、ICS は外国人学生のサポートに関する経験・インフラともに充実している。

完全に英語のみのカリキュラムもその1つであり、ICS の国際経営戦略コースに関しては教員全員が英語で授業を行っている。事務職員も英語による学生対応を行っている。すべての教材と学生に関する資料も英語で作成されている。また、英語での対応が可能な心理カウンセラーが毎月2回大学を訪れ、精神的な問題を

抱える学生に対応するほか、国立キャンパスにはカウンセラーが常駐している。

2013年1月より日本語授業の実施を正式に単位取得科目として開始し、日本に来る学期間交換留学生及びダブル・ディグリー学生が日々の生活を円滑に行うことができるように支援する環境を整えた。

ダブル・ディグリー学生及び学期間交換留学生に対して、受け入れ大学より奨学金が支給される。同派遣学生に対しては、所属大学より往復の交通費が支給される。(PKU に関しては中国政府の意向により支給されないことが決定した。)

3大学は1コース当たりの単位数に基づいた単位互換システムを設定した。

修了に必要な単位数が3大学間で異なり、ICS では修了(1年プログラムについて)に 70 単位が必要だが、SNU は 49 単位、PKU は 54 単位である。ダブル・ディグリー・プログラムの場合、学生は各大学の修了要件単位数から、各国の法律等で定められた認定可能な単位数を減じた残りの単位数を取得することが求められる。

ICS と SNU は GPA システムを導入しており、PKU はポイント制による成績評価システムを導入している。ダブル・ディグリー・プログラムと学期間交換留学プログラムの各コースに対する成績は、学生の所属大学の成績管理簿に記載される。ダブル・ディグリー・プログラムの場合、それぞれの大学が当該学生の記録を管理し、両大学からの成績を記載する。

ABLP 参加学生の成果として以下を目指す。1) 日本、中国および韓国の経済界のビジネスリーダーを育成のために学生が以下を習得できるようなカリキュラムを目指す。2) 日本、中国および韓国の主要企業との協力・連携を促進、企業ニーズに合わせたインターンシップや就職支援が、東アジアのビジネスリーダー育成に繋がる。3) 日本、中国および韓国における各大学の社会的評価・認知度の向上。

ICS では学士課程質保証の観点に立ち、平成 22 年度入学者から一定値以上の GPA を卒業要件とした。あわせて低 GPA 学生に対する指導・支援の強化を行うとともに、相談体制を強化し学習支援体制整備の準備を開始した。3大学の各研究科の当該プログラムは国際的な大学認定機関によって認定を受けている。ICS は ABEST21、PKU は EQUIS、SNU は AACSB によって認定されている。ICS ではコースごとにコース内容と担当教員の評価アンケートを行う。担当教員も学生の成績評価を行い、平等性を保つために毎回同日を期限とし、事務局に提出をする。教員は学生によるコース内容と評価アンケートをもとに今後のコース内容の見直しを行い、より充実したコンテンツを提供できるように努める。

Ⅱ 基準ごとの自己分析

基準1 教育プログラムの目的
海外大学との共同教育プログラムの目的が明確に定められ、参加大学の間で共有されているか。

1. 基準1に係る現況の説明

アジア・ビジネスリーダー・プログラム(ABLP)は、2011年11月に3大学間で締結されたBESTビジネス・スクール提携協定に基づいているため、2011年12月のプログラム開始以前から、3大学で非常に緊密な情報共有を行い、本プログラムの目的及び育成する人材像についての協議を行ってきた。各大学の研究科長及び担当教員で構成されるBESTビジネス・スクール提携協定の運営委員会は、1年に2回開催しており、今後も情報共有を密に実施する予定である。また、当初の2年に1回開催であった3大学間の会合「BESTシンポジウム」は2年に1回から、1年に1回開催に変更し、各大学の教員が共同で行っている協働研究の進捗報告と論文発表の機会を増やした。BESTシンポジウムは各大学より研究科長ならびに担当教員が集合する絶好の機会であるため、運営委員会も同時に実施し、今後も情報共有を密に実施する予定である。

さらに、本プログラムで実施されているダブル・ディグリー・プログラム、学期間交換留学プログラム及び短期集中プログラムにおいて、「ダブル・ディグリー覚書」(ソウル大学:2013年5月締結予定・北京大学:2012年12月締結)及び「学術・人物交流に関する協定書」(交流協定)(ソウル大学:2007年7月締結・北京大学:2011年4月締結)を締結することにより、目的及び育成する人材を文書化し、更に明確なものとして共有できるように努めている。

BESTビジネス・スクール提携協定には、「三国が経済的絆を強化するためには、協力相手国の経済、ビジネス、社会、文化、及びその他のビジネスに関連するさまざまな事柄をお互いに理解しなければならない」こと、また、「三大学院は東アジアが共に繁栄していくことに貢献する将来のビジネスリーダーを共同で教育する。」ことが明記されており、三大学間が育成すべき人材像とアジアの主要国の代表的教育機関として、目指す方向性は一貫しており、非常に明確であると言える。

以上のことから、基準1における当プログラムの取組状況は「進展している」と自己判定する。

2. 今後の課題点

現時点での一番の懸念は、中国政府の支援体制である。PKUの受入学生(ICS学生及びSNU学生)に対する奨学金の支給は決定したと同時に、PKUの派遣学生(PKU学生)への支援がされないことも決定した。短期集中プログラムは3大学で選抜された10名ずつの参加学生が共に行動するため、学生間で情報交換がされ、支援内容に差があることを知らされた学生間に不安が及んだ。この点はプログラム終了後、参加学生にコース内容の評価アンケートと感想を募った際に発覚し、早急にPKU担当者と話し合い、次回からはPKU参加学生に事前に周知することで解決した。しかし、中国政府の支援体制は今後も油断できない状況にあると考える。

基準 2 教育の実施
基準 2－1 実施体制 目的を達成するための体制が、参加大学等の間で適切に構築され、機能しているか。

1. 基準 2－1 に係る現況の説明

既に基準1で述べたとおり、本プログラムは BEST ビジネス・スクール提携協定をベースに、「ダブル・ディグリー覚書」(ソウル大学:2013 年 5 月締結予定・北京大学:2012 年 12 月締結)及び「学術・人物交流に関する協定書」(交流協定)(ソウル大学:2007 年7月締結・北京大学:2011 年4月締結)を締結しており、運営体制は明確になっている。また、日常的に参加大学間の担当者と E メールやビデオ会議などでの連絡を定期的に実施、また、当初2年に1度としていた3大学間の会合「BEST シンポジウム」を毎年行うことに変更し、各大学の担当者全員が1年に1度は実際に集結して顔を合わせる機会を設け、運営方法や課題について協議する運営委員会を開催することとした。(ビデオ会議でも可としている。年2回のうち1回は顔を合わせ、もう1回はビデオ会議としている。)これにより、参加大学間での課題の共有や分担をより行いやすい体制を整えた。また、この際、各大学の教員が共同で行っている協働研究の論文発表の機会を設け、教員同士の研究交流の場としても活用している。第1回は、2012 年 5 月に北京大学にて行われ、華々しいスタートを切ることができた。第2回は、SNU にて 11 月に開催される予定であり、現在、各大学にて課題の洗い出しや研究発表などを準備中である。

また、学内においても、本学で留学生業務を取り扱っている学務部国際課と密に連携をとり、留学生への支援を行っている。

参加大学はすべて英語のみによる学位授与を行っている経営専門大学であり、教員は全員英語で指導することを要求され(日本語授業の各初級・中級・上級を除く)、事務職員も英語による対応が可能である。また、全ての資料及び案内を英語で発信している。

ICS では、毎年、ハーバード・ビジネス・スクールの主催する教員向けエグゼクティブ教育プログラム「GLOBAL COLLOQUIUM ON PARTICIPANT-CENTERED LEARNING」(GCPCL)に1～2名の教員を派遣し、欧米のビジネス・スクールによりリードされているグローバリゼーション促進傾向に対応しつつ、そのノウハウをアジアでのビジネス教育にバランスよく活かし、アジア発信の世界的なビジネスリーダーの育成に役立てている。

以上のことから、基準2-1における当プログラムの取組状況は「進展している」と自己判定する。

2. 今後の課題点

ABLP をさらに発展させるため、昨年度より開始した日本語授業に加え、中国語と韓国語を学べるような体制を整える必要がある。単位取得科目として実施するのが理想的と考える反面、履修学生数を満たせるかどうかという大きな課題で残る。

ダブル・ディグリー・プログラムに関し、SNU のダブル・ディグリー・プログラム開始時期が ICS より半年遅い1月であり、募集時期が9月～11月であり、結果発表が11月とICSと大幅に異なる。ICS の学生が2年目の計画を立てるのは2月～4月であり、SNU のダブル・ディグリー・プログラムに参加を希望する学生は、11月まで結果を待たなければならない状況であった。これを回避するため、SNU には書類審査等を非公式で2月～4

〔大学名：一橋大学〕

月に実施してもらい、選抜プロセスを特別に早めてもらうことで、SNU でのダブル・ディグリー・プログラムを ICS 学生が2年目の計画として選択肢にできるように交渉し、了承を得た。この調整に非常に時間を要したため、ダブル・ディグリー覚書締結時期が大幅に遅れた。(正式な捺印は現在 SNU 側で進行中。)したがって、募集期間を極端に短縮せざるを得なくなり、SNU から ICS へのダブル・ディグリー学生の募集が困難な状況である。

基準 2－2 教育内容・方法

目的を達成するために適切な教育内容や教育方法が共同して検討され、実施されているか。

1. 基準 2－2に係る現況の説明

ABLPは3つのプログラムから成り立っている。一つ目はダブル・ディグリー・プログラムである。第1回は今年度となり、参加学生がほぼ決定した。2つ目は学期間交換留学プログラムである。ICSからは昨年度、そして今年度も定員の2名ずつの派遣が決定している。昨年 PKU に派遣した2名の学生は、ICS 学生を代表し、PKU にて開催された「国際交流フェア (International Fair)」にて ICS 及び ABLP の宣伝、周知をした。教員及び事務局の運営側だけではなく、実際に参加している学生の視点からのプレゼンテーションに PKU に集まった国際交流フェアの観客は非常に深く興味を示し、参加校 44 大学の中で ICS は最も訪問学生が多かった。3つ目は短期集中プログラムである。第1回の昨年度は、GPA と参加希望学生によるエッセイ(なぜ当プログラムに参加を希望するか)により選抜をした。参加学生 30 名は北京、東京、ソウルの順番で共に授業を受け、各国の主要企業を訪問し、現役ビジネスリーダーの話を直接聞き、共にプロジェクトを担当するなどして2週間を過ごし、強い結束力と協力関係を築くことができた。プログラム終了後もソーシャルネットワーク等で繋がりを続けている。このプログラムは参加人数が多く、ネットワークは大変強力である。将来の東アジアのビジネスリーダー育成とネットワーク作りという本補助事業の目的を達成させるキープログラムと言える。

以上のことから、基準2-2における当プログラムの取組状況は「進展している」と自己判定する。

2. 今後の課題点

1つ目は、短期集中プログラムに関し、開催時期が夏休みであることと、現地での主要企業によるプログラム参加の協力が必要であるため、3大学の教員によるコミットメントが特に必須となる。昨年度の第1回は3大学間で大きく差が生じたことが参加学生のフィードバックに明確にあらわれた。ICS による東京モジュールは群を抜いて好評であったが、3大学間が一貫して同レベルであることが重要であり、12 月に行われた研究科長率いる運営委員会にて問題を提示し、議論した。次回の短期集中プログラムは、前年度よりさらに緊密に協議を繰り返し、準備を進めている。

2つ目は、ABLP 卒業生のネットワーク(アルムナイ・ネットワーク)の管理体制の整備である。

基準 2－3 学習・生活支援

学生が適切に学べる環境を形成し、学習・生活面の支援を行っているか。

1. 基準 2－3に係る現況の説明

ICS、PKU、SNU は、全英語プログラムの提供をしており、数多くの外国人学生受け入れの経験もあるため、サポートは充実していると言っている。3大学の規模に差があり、対応の方法に多少の差はあるものの、提供されているサポートの質は3大学ともレベルが高いと言える。

ICS は比較的小規模であるため、学生一人ひとりへの多方面のケアが可能になっている。事務職員も英語での対応が可能であり、全ての資料や案内を英語で発信している。また、キャリアサービスではセミナー・アドバイザーとともに外国人学生の就職サポートを行っており、PKU や SNU の ABLP 参加学生も必要に応じて ICS 学生と同じサポートが可能な体制を整えている。

教員、事務職員に加え、ICS では卒業生ネットワークが充実しており、ソーシャルネットワークを中心に実際に経験を積んできた卒業生が学生視点で現役学生へのサポートを随時行っている。

ABLP 参加学生には、参加するプログラムに応じて各大学事務担当から必要事項や履修可能授業項目の案内が送られ、学生による質問は全て各大学に配置されている担当事務員が英語で対応している。学期間交換留学生は ICS のキャンパス内にある宿泊施設が提供されている。ダブル・ディグリー学生は ICS の正規学生と同じ条件で一橋大学の外国人専用宿舎が案内する。引っ越しを希望する学生にはハウジングのサポートも適宜提供している。ICS では文部科学省によるヤング・リーダーズ・プログラム他、多種の奨学金を準備しており、キャンパス・アジア以外の学生にも適宜奨学金の支給を実施してきた。

以上のことから、基準2-3における当プログラムの取組状況は「進展している」と自己判定する。

2. 今後の課題点

特に無し。

基準 2－4 単位互換・成績評価

単位の取得や海外大学等との互換方法、成績評価の方法および海外大学等との互換方法が定められ、機能しているか。

1. 基準 2－4 に係る現況の説明

学期間交換留学プログラムの参加学生に関して、成績評価は合格または不合格 (Pass/ Non pass) の評価をしている。PKU または SNU への派遣学生は、派遣先の大学 (PKU または SNU) にて各大学の方針に沿った成績評価が設定され、その成績を ICS に持ち帰り、全てが合格していることを確認したうえで、2 年目の必修科目の一部を満たしたと見なされている。

ダブル・ディグリー学生は、各大学から1つつ2つの学位 (ディプロマ) を取得できるため、所属大学での卒業要件と派遣大学での卒業要件を満たさなければならない。ダブル・ディグリー学生の成績評価は、それぞれの大学が当該学生の記録を管理し、両大学からの成績を記載する。これらは全てダブル・ディグリー覚書に明記されている。

単位互換が実質的に発生するのはダブル・ディグリー・プログラムが実質的に開始する今年の9月からであり、ICS としては一橋大学としても初めてのダブル・ディグリー・プログラムであるため、学務部国際課他、関連部門とも細かい協議を重ねながら受け入れの準備を進めている段階である。

以上のことから、基準2-4における当プログラムの取組状況は「標準的」と自己判定する。

2. 今後の課題点

ダブル・ディグリー・プログラムの開始に伴い、単位互換が発生する。単位互換や成績評価は明確であるものの、ICS のダブル・ディグリー学生 (派遣) が PKU もしくは SNU で履修した授業と取得した単位を ICS に持ち帰った際、成績証明書にどのように記載するかなどの詳細は検討中。

基準3 学習成果
教育プログラムの目的に即して学習成果を測定する方法を設定し、成果が適切にあがっているか。

1. 基準3に係る現況の説明

ABLP の成果として目指すのは、日本、中国および韓国の経済界のビジネスリーダーを育成することである。そのため、カリキュラムを以下のように充実させることが成果に繋がると考える。

- 日本、中国および韓国の経済及びビジネスシステムに関する確かな知識
- 3カ国における現在そして今後のビジネスモデルとその構築に必要なリーダーシップの理解
- 東アジアにおける企業のグローバル化に対応できるスキル

また、卒業後の就職支援の面では、日本、中国および韓国の主要企業との協力・連携を促進し、企業ニーズに合わせたインターンシップを提供している。ICS はキャリアサービスによるきめ細やかな就職支援を実施しており、蓄積されたデータをもとに、学生の学習成果と将来の展望を比較し、ひとりひとりが希望する道に進めるように支援をしてきた。ABLP 参加学生にも同じサービスを提供し、データは同じように蓄積、集計、そして分析をすることによって、ABLP の成果がデータとして明確化されることを目指す。

以上のことから、基準3における当プログラムの取組状況は「標準的」と自己判定する。

2. 今後の課題点

ICS、PKU、SNU において、相互の管理体制は ABLP 開始時よりあらゆる局面で蜜に協議を繰り返してきた結果、かなり改善されており、今後も更にプログラムの向上に努めるよう協力体制を整える。今後、ABLP 参加学生の卒業生ネットワーク(アルムナイ・ネットワーク)の管理体制を整える必要がある。

基準4 内部質保証システム

内部質保証や改善のための体系的な取組みが、参加大学との連携のもとで行われ、機能しているか。

1. 基準4に係る現況の説明

本プログラムでは、すべての授業において、担当教員が学生の成績評価を行うのと同時に、学生が授業内容及び担当教員の評価アンケートを実施している。これは、ICS で以前から実施されている制度であり、平等性を保つために同日を期限とし、事務局に提出する。教員は学生による評価をもとに今後の授業内容の見直しを行い、より充実したコンテンツを提供できるように努めている。この制度は、学期間交換留学プログラムで参加した学生にも実施されたほか、第1回短期集中プログラムでも実施された。ICS、PKU、SNU の参加学生による様々な視点の評価は大変有益なもので、次回の短期集中プログラムを更に充実させる重要な要素となった。平成 25 年度に実施されるダブル・ディグリー・プログラムの学生についても、本制度を実施する予定である。

短期集中プログラムで参加学生より集められたフィードバックを元に、11 月の北京大学でのミーティングでは事務担当レベルで、また 12 月の運営委員会では研究科長率いる担当教員も全員で協議し、各モジュールでの反省を踏まえ次回以降に活かせる改善点や今回好評であり更に活かせる点などについて論議をした。

以上のことから、基準4における当プログラムの取組状況は「進展している」と自己判定する。

2. 今後の課題点

3大学はそれぞれ内部質保証システムが整っていると言えている。

基礎データ票

[大学名]	一橋大学大学院 国際企業戦略研究科		
	(中国側大学) 北京大学	(韓国側大学)	ソウル大学
[構想名]	アジア・ビジネスリーダー・プログラム		

1. 構想全体における交流学生数(実績)

(単位:人)

平成23年度		平成24年度	
受入	派遣	受入	派遣
0	1	20	14

2. 奨学金・宿舎提供の状況

(単位:人)

(1)奨学金を受けている学生数		平成23年度		平成24年度	
		受入	派遣	受入	派遣
		0	1	0	4
内訳	日中韓三国共通の財政支援受給者		1		4
	大学による奨学金				
	その他の奨学金				

(2)宿舎(大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等)を提供されている学生数		平成23年度		平成24年度	
		受入	派遣	受入	派遣
		0	1	0	4

3. 個別の交流プログラムの概況

※色の見方 外国人学生の受入れ(中韓⇒日本) 日本人学生の派遣(日本⇒中韓)

受入/ 派遣	相手国	平成23年度				平成24年度			
		第3四半期		第4四半期		第1四半期		第2四半期	
受入	中国							④10	
	韓国							④10	
派遣	中国								①2
	韓国				②1			③2	

外国人学生の受入れ(中韓⇒日本)								日本人学生の派遣(日本⇒中韓)							
No.	交流期間		派遣元	交流内容	取得可能 単位数	学生交流数		No.	交流期間		派遣先	交流内容	取得可能 単位数	学生交流数	
	始期	終期				計画値	実績		始期	終期				計画値	実績
④	2012.08	2012.08	日本	短期集中プログラム	2	20	20	①	2012.09	2013.01	中国	学期間交換留学	4	2	2
								②	2012.03	2012.05	韓国	学期間交換留学	6	2	1
								③	2012.08	2012.11	韓国	学期間交換留学	6	2	2
								④	2012.08	2012.08	中国・韓国	短期集中プログラム	2	10	10

但し、派遣元の卒業単位には加算されません。

(3) 授業科目一覧表（一橋大学）

ソウル大学経営学部・経営専門大学院

Seoul National University Graduate School of Business

授業科目の名称 Name of the course	教授言語 Language	担当教員 Instructor's name	受講年次 Academic Year	学期 Term	必修／選択の別 Required/ Elective	取得可能単位 Minimum Credits	授業科目ごとの単位取得者数 Number of students who were granted credits for the course
Strategic Cost Management and Performance Management	English	Rajiv Banker	2012	Mar-May	Elective	6	1
Derivatives	English	Kewei Hou			Elective		1
Topics in Strategy	English	Hart Posen			Elective		1
Topics in Finance	English	Cheol S. Eun			Elective		1
Managerial Economics	English	Jungsuk, OH	2012	Aug-Nov	Required	6	1
Marketing	English	Wujin, CHU			Required		1
Human Recource Management	English	Sungsu, KIIM			Required		1
Managerial Economics	English	Jungsuk, OH	2012	Aug-Nov	Required	6	1
Marketing	English	Wujin, CHU			Required		1
Human Recource Management	English	Sungsu, KIIM			Required		1

北京大学光華管理学院

Peking University Guanghua School of Management

授業科目の名称 Name of the course	教授言語 Language	担当教員 Instructor's name	受講年次 Academic Year	学期 Term	必修／選択の別 Required/Elective	取得可能単位 Minimum Credits	授業科目ごとの単位取得者数 Number of students who were granted credits for the course
Current Topics in Chinese Strategy and Investing	English	Jonathan R. Woetzel & Jeffrey Towson	2012	Sep-Jan	Elective	4	1
Topics in International Finance and Capital Market	English	Giles Chance			Elective		1
Tax Planning and Tax Accounting	English	Paul Gillis			Elective		1
Current Topics in Chinese Strategy and Investing	English	Jonathan R. Woetzel & Jeffrey Towson	2012	Sep-Jan	Elective	4	1
Primary Business Chinese II	Chinese	Iiu Yalin			Elective		1

(4) 採択プログラムの実施体制表（一橋大学）

日中韓合同の運営組織

			PKU	SNU	ICS
BEST Alliance Director	1	Name	CAI, Hongbin	KIM, Byungdo	KANNO, Hiroshi（菅野 寛）
		Title	Dean, Professor	Dean, Professor	Dean, Professor（研究科長、教授）
	2	Name		RHO, Sangkyu	ICHIJO, Kazuo（一條 和生）
		Title		MBA Associate Dean, Professor	Faculty Director of BEST Alliance, Professor（教授）
One Asia	1	Name	ZHANG, Wei	SONG, Jaeyong	ICHIJO, Kazuo（一條 和生）
		Title	Assistant Dean of Global Executive Education, Professor	Professor	Faculty Director of BEST Alliance, Professor（教授）
	2	Name	PENG, Siqing		
		Title	Academic Director of One Asia Program, Professor		
BEST Symposium	1	Name	LIU, Qiao	CHO, Theresa	ICHIJO, Kazuo（一條 和生）
		Title	Assistant Dean of International Relations, Professor of Finance	Associate Dean of International Affairs, Associate Professor	Faculty Director of BEST Alliance, Professor（教授）
Research	1	Name	LIU, Qiao	CHO, Theresa	AKUTSU, Satoshi（阿久津 聡）
		Title	Assistant Dean of International Relations, Professor of Finance	Associate Dean of International Affairs, Associate Professor	Faculty Director of DBA Program, Professor（教授）
Double Degree MBA Program	1	Name	ZHAO, Longkai	RHO, Sangkyu	FUJIKAWA, Yoshinori（藤川 佳則）
		Title	Assistant Dean of MBA Program, Professor	MBA Associate Dean, Professor	Faculty Director of MBA Program, Associate Professor（准教授）
Exchange Program	1	Name	MO, Shujun	RHO, Sangkyu	HIROSE, Ayano（廣瀬 文乃）
		Title	Director, International Programs	MBA Associate Dean, Professor	MBA Program & ABLP Director, Adjunct Assistant Professor（特任講師）
	2	Name		PARK, Jinsun	MIYAZAKI, Reiko（宮崎 れい子）
		Title		Manager of International Relations / Marketing	Program Coordinator, ABLP/MBA（特任助手）
DBiA	1	Name	MA, Li	RHO, Sangkyu	KORVER, Michael（コーパー マイケル）
		Title	Associate Professor	MBA Associate Dean, Professor	Professor（教授）
	2	Name		PARK, Jinsun	MIYAZAKI, Reiko
		Title		Manager of International Relations / Marketing	Program Coordinator, ABLP/MBA（特任助手）
Administration	1	Name	HU, Julia	CHO, Eun Ae (BEST Alliance Events, One Asia)	MIYAZAKI, Reiko
		Title	Associate Director, International Relations Office	Associate Director	Program Coordinator, ABLP/MBA（特任助手）
	2	Name		PARK, Jinsun (MBA Exchange Programs/Double-degree, DBiA)	
		Title		Manager of International Relations / Marketing	

(4) 採択プログラムの実施体制表（一橋大学）

プログラムの運営体制図、及び日本側のプログラム運営組織のメンバー表

一 橋 大 学						BEST Alliance 諮問委員会		
国際課			大学院 国際企業戦略研究科					
担当	役職	名前	担当	役職	名前	所属企業・大学名	役職	名前
事務対応	課長	市川理恵	事務対応	事務長	大出実樹雄	日産自動車株式会社	常務	川口均
	係長	高田博志		教務係員	国安真理子	株式会社LIXIL	執行役副社長	八木洋介
	係員	畑 陽子		会計担当	高橋瑞穂			
			プログラム全体企画・運営	担当教員・教授	一條和生	一橋大学大学院国際企業戦略研究科	特任教授	松永和夫
				特任助手	宮崎れい子			
				特任助手	浦綾			
				共同研究・教授	阿久津聡			
			個別プログラム対応	MBAプログラム・准教授	藤川佳則			
				Doing Business in Asia・教授	コーバー マイケル			